

【OIE 情報】 ノルウェーにおける牛海綿状脳症 (BSE) の発生について

ノルウェーにおける初の牛海綿状脳症 (BSE) (非定型、H型) の発生について、OIEへ緊急報告がありましたのでお知らせいたします。

なお、我が国と当該国は偶蹄類動物由来の肉等について家畜衛生条件を締結していますが、本発生を受けて、本日より同国からの牛、めん羊及び山羊並びにこれらの動物由来の肉製品等について輸入を停止しています。

OIEウェブサイト上、ノルウェーの獲得している「無視できるBSEリスク」のステータスに変更はありません。

出典：OIEウェブサイト (2015年 1月29日付け)

http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=17023

(OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。)

【概要】

- ・発生数：1件 (緊急報告)
- ・発生日：2015年 1月16日
- ・OIEへの報告日：2015年 1月29日
- ・ノルウェーにおける初の発生
- ・非定型 (H型)
- ・臨床徴候は認められていない

【発生状況】

- ・ヌール・トロンデラーグ県の農場

【動物種】	【飼育頭数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
牛	27	1	0	1	0

【疫学情報】

- ・感染源：不明または調査中
- ・2015年 1月29日の状況に基づく：
- ・2015年 1月20日、ノルウェー獣医学研究所は、中枢神経系の材料を用いた初期検査により、BSEが疑われるノルウェーの雌牛について報告。
- ・材料の一部は、確定診断のため、ウェイブリッジにあるEUのリファレンス研究所に送付された (2015年 1月21日)。
- ・BSEと確認された雌牛は15歳齢であり、ノルウェーで出生した。
- ・母牛はスウェーデンから輸入された。
- ・本雌牛は、加齢及び損傷を理由に淘汰されるまで (2015年 1月12日)、神経疾患の臨床所見を示さなかった。
- ・BSEサーベイランスプログラムの一環として、BSE検査が実施された。
- ・ノルウェー食品安全当局 (NFSA) は当該農場を移動制限下に置き、疫学調査を実施。

- ・NFSAIは関連法規に基づき4頭のリスク牛を同定。これらの牛も同様に政府の移動制限下に置かれた。
- ・これらの4頭の牛は淘汰され、EU法に基づく焼却処理がなされる予定。
- ・出生農場及び現在飼育していた農場からのリスク動物の追跡を含む疫学調査が実施され、
 - (1) BSEと確認された牛の出生前後の1年間に、BSEと確認された牛と同一群で出生したコホート牛
 - (2) 出生から1年間、BSEと確認された牛と共に飼育されたコホート牛
 に加え、本出来事の前2年間に出生した2頭の子牛が同定された。
- ・本出来事の前2年間に出生した2頭の子牛及びコホート牛は、移動制限下に置かれており、これらの動物の淘汰及び処分は早急を実施される。
- ・BSEと確認された雌牛の死体は完全に処分されている。
- ・NFSAIは本雌牛の死体がカテゴリー1処理施設において、高圧滅菌処理され、その結果生じた物質は副産物規則に基づく焼却処理のために送付されたことを保証する。

【対応】

- ・国内移動制限
- ・スクリーニング
- ・患畜を治療対象としない
- ・部分淘汰実施予定

【診断】

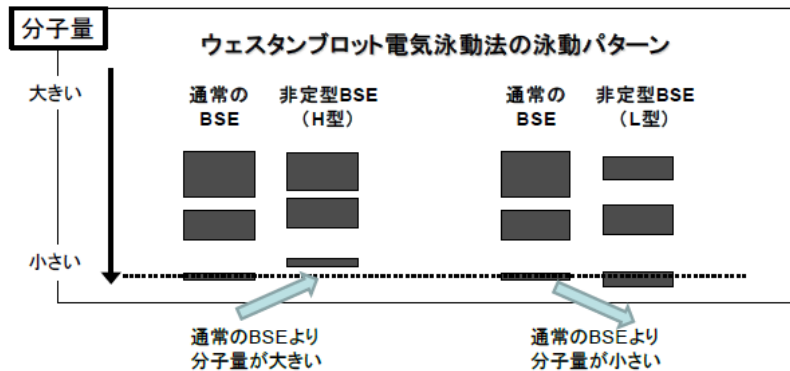
- ・診断施設：ノルウェー獣医学研究所（国立研究所）
- ・診断方法：ELISA、ウェスタンブロット：陽性（2015年1月20日）
- ・診断施設：英国ウェイブリッジ研究所（OIEリファレンスラボラトリー）
- ・診断方法：ウェスタンブロット、免疫組織化学：陽性（2015年1月28日）

【参考1】発生地図



【参考2】非定型BSEとは

- ・ウェスタンブロット法によるBSEの確定診断の結果（電気泳動像）が、従来のBSEとは異なるパターンを示すBSE症例が、2003年以降、各国で確認されており、非定型BSEと呼ばれている。



出典: Dr James Hope, Centre for Epidemiology and Risk Analysis, Veterinary Laboratory Agency Lasswade, UK

- ・非定型BSEは、従来のBSEと比較して世界でも確認されている症例数は少ないが、食品安全委員会によると日本の一例を除き、ほとんどの非定型BSEは、8歳を超える高齢牛で確認されており、年齢の幅は6.3～18歳と報告されている。
- ・食品安全委員会によると、現時点では非定型BSEの起源は明らかになっていない。EUでは汚染された飼料による可能性を排除することはできないとする一方で、フランスでの非定型BSEの発生頭数の分布から、これまでの定型BSE（通常BSE）とは異なり特定の出生年との関連が認められていないため、孤発型（原因不明で発症するもの）のプリオン病との解釈も示されている